

**製品名: PHI-1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16071**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000
分子量	

**抗原情報**

遺伝子名	PPP1R14B
別名	PPP1R14B; PLCB3N; PNG; Protein phosphatase 1 regulatory subunit 14B; Phospholipase C-beta-3 neighbouring gene protein
遺伝子 ID	26472.0
SwissProt ID	Q96C90
免疫原	PHI-1 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 50-130

**背景**

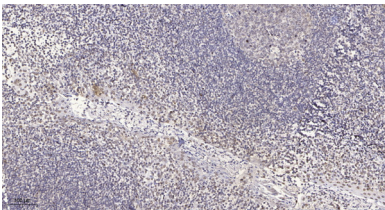
機能: PPP1CA 阻害剤。リン酸化されると 50 倍以上の阻害活性を示す。PTM: PKC (in vitro) によって主に Thr-57 がリン酸化され

る。未知の Ser も PKC (in vitro) によってリン酸化される。類似性: PP1 阻害剤ファミリーに属する。組織特異性: 普遍的。低発現。機能: PPP1CA 阻害剤。リン酸化されると 50 倍以上の阻害活性を示す。PTM: PKC (in vitro) によって主に Thr-57 がリン酸化される。未知の Ser も PKC (in vitro) によってリン酸化される。類似性: PP1 阻害剤ファミリーに属する。組織特異性: 普遍的。低発現。 ,

## 研究分野

-

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。